和編
假名垣魯文譯
臺林芳年畫
下

A385
2

新國萬解繪童

初編

下之巻

假名垣魯文譯
孟齋芳虎画

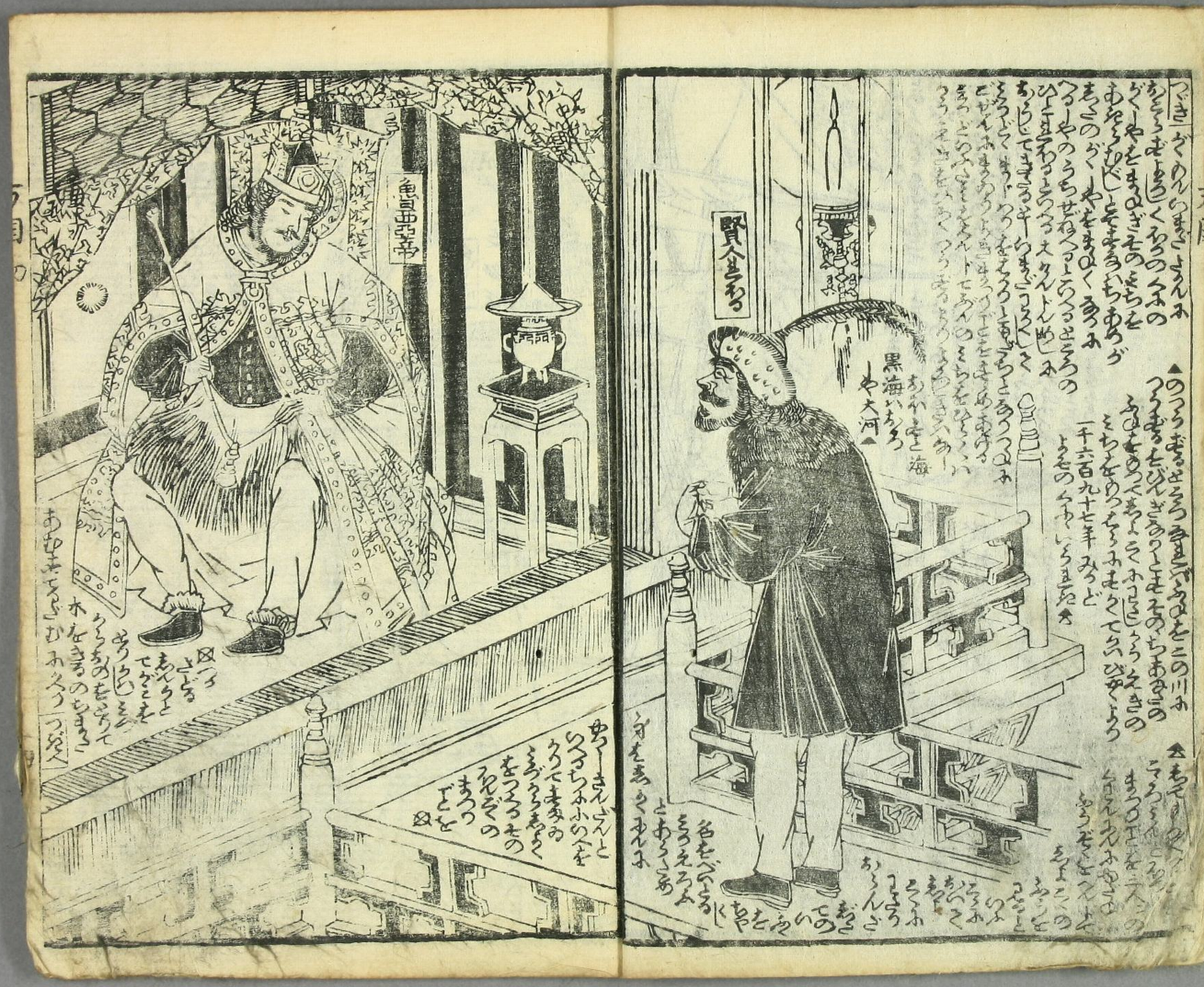
山田屋藏板

48-7985

魯西亞国部

帝の兄
帝の伯父

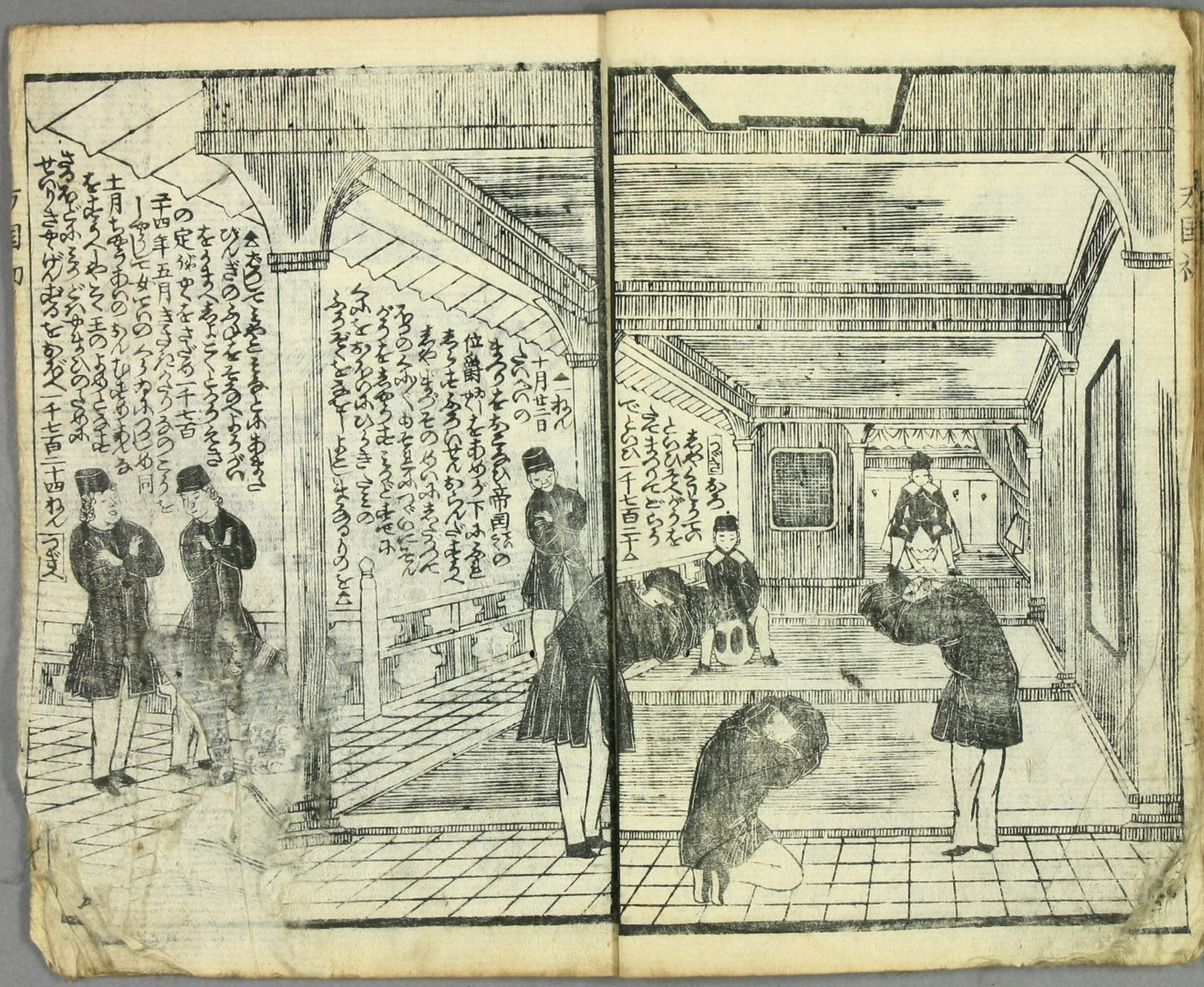
○魯西亞帝宝庫を開らき英吉利の故船を見る図


賢人ものがたり
黒海いろろや大河
亀山西の帝

魚目帝
つぎ

つぎ
魯西亞の百姓耕作の道を勵む

つづき
一千七百十七年


つぎ
十月廿三日
一ねん

つづき九月廿五日ごろ
廿四へのまんろを
まろひのじ
まろ
まろ
次へ

山郎
魚目西亞の妃帝位

010190518014

假名垣魯文譯 孟齋芳虎画

魯西亞女帝

○ぶんぶんいかちんごまめちう
あんきえのあうさゑをまらうぶ
つぐりなきつぐさきあつたんつまま
うひるあいうふくまどどまうたん
よろーくちんれたあのわと
ねるひあげくんまろひ
さくやふにまうも

○魯西亞国の伯德琺の都府情景

萬延二辛酉春開板目録

御所櫻梅松録

初編より九編迄出板　鶴亭秀賀作　歌川國貞画

初編　二編　三編　八菅原家の御殿場是菩郷の御臺所松の前と御妻男と時の懐胎より御世継を産んとの角附合ふ給りく四編より至りて道真公御詳紙綸の奇端あり[illegible]五編　六編　あゝ公の生立発端の[illegible]赤衛繼母の為に甚く憂苦を做[illegible]末白縫の統紫ふ御鎮座迄ハ遠き長き物語りあり日大團圓小手迄高覧あらんこと願ふ

御研奉公　いのり日記　十一編より十二編　十三編　鶴亭秀賀作　孤齋芳虎画

教草女房形氣　十一編　鶴亭秀賀作　梅蝶楼國貞画

足利絹手染紫　二編金水作　三編國貞画

源家武勇鑑　名　秀賀作合　孤齋芳虎画録

売地本問屋　錦橋堂　南傳馬町　山田屋庄次郎　板